

令和6年6月定例会 一般質問

質問者 久谷 眞敬議員

質問日 令和6年6月11日（火）5番

大阪維新の会大阪府議会議員団の 久谷 眞敬です。

通告に従い、順次質問させていただきます。



1. 自転車の交通ルールについて

まず私のライフワークである自転車関連の質問をさせていただきます。

私自身、自転車を利用して大阪市内を移動する際に、車道の左側に青色の矢羽根型の表示がペイントされたり、交差点にある自転車横断帯や歩行者用信号機に設置された歩行者・自転車専用を示す標示板が順次撤去されたりする状況を目にし、交通事故防止対策の一環として、自転車が車道を通るための空間整備が着実に進んでいるものと認識しています。

しかしながら、府下の交通事故情勢につきましては、死者数が2年連続全国ワーストとなり、中でも自転車乗車中の事故で命を落とされた方が多くおられた

と聞いています。

そのような中、府民から「自転車で交差点を通る際にどこを通ればいいのか分からない」という声をしばしば耳にします。

申し上げるまでもなく、自転車は車道を通るのが原則で、歩道は例外ではありますが、自転車の正しい通行方法等の交通ルールを知らない府民の方が意外に多いのではないかと懸念しております。

私は自転車が関係する悲惨な交通事故を未然に防止するためには、自転車の通行空間の整備に併せて、通行方法等の交通ルールの周知が極めて重要であると考えています。

そこで、府下における自転車の交通事故発生状況と交通ルールの周知に向けた取組について伺います。

<警察本部長答弁>

- 府下における自転車の交通事故発生状況につきましては、昨年、交通事故死者数が37人で、これに重傷者を加えた死重傷者数は1,152人でありました。死者数は全国ワースト、また、死重傷者数は8年連続全国ワーストとなっており、大変厳しい状況にあると認識しております。
- このような中、自転車利用中の死者・重傷者の約8割に何らかの法令違反が認められることから、死亡・重傷事故を減らしていくためには、交通ルールの周知徹底が大変重要であると考えております。
- このため、自転車利用者に対しまして、交通事故多発交差点を中心とした交通指導取締りのほか、自転車の正しい通行方法等の交通ルールに関する啓発資料を企業や学生、著名人等の協力を得つつ作成の上、小中学校での交通安全教室や各種交通イベント等のあらゆる機会を活用して周知徹底に努めているところであります。

<要望>

引き続きよろしく申し上げます。

質問の冒頭で申し上げた、自転車通行空間の整備については、平成30年度の一般質問でも指摘させていただきました。整備にかかる事前通知をもっと行っていただければ、「自転車は車道」という原則を、よりいっそう皆さんにも周知・認識していただけたと考えていますので、この場をお借りて申し上げたいと思っております。

2. 特定小型原動機付自転車について

次に、特定小型原動機付自転車、いわゆる電動キックボードについて質問します。

昨年7月に一定の基準を満たす乗り物が特定小型原動機付自転車と区分され、16歳以上は免許不要で手軽に利用できる乗り物として、若者を中心に大阪市内で普及が進んでいると感じています。

警察と事業者が連携して、安全利用に向けた啓発を進めていくと承知していますが、特定小型原動機付自転車はあくまで原動機付自転車の仲間であり、自転車とは一線を画す乗り物であるにもかかわらず、街中では、歩道上で歩行者の間を縫うように走行したり、車道を逆走するなどの無謀な運転を見かけることがあります。

府民からは「歩道を歩くのが怖い」という声を聞くこともあり、このような悪質運転者が重大な交通事故を起こす前に対策を講じることが重要であると考えています。

そこで、特定小型原動機付自転車の交通事故発生状況と悪質運転者への対応についてお伺いします。

<警察本部長 答弁>

- 特定小型原動機付自転車の交通事故発生状況につきましては、法施行された昨年7月から本年4月末までの間に、31件の人身交通事故が発生し、うち6件が重傷事故（頭蓋骨骨折等）となっています。これらの交通事故のほぼ全てが大阪市内で発生しており、約4割の交通事故に歩道通行や信号無視等の法令違反が認められております。
- 次に、悪質運転者への対応につきましては、大阪市内を中心に交通指導取締りを強化しており、昨年7月の法施行後半年間の検挙件数は347件でしたが、本年は4月末の時点で既に1,039件を検挙しており、中には酒気帯び運転といった悪質な違反も含まれています。
- 引き続き、悪質・危険な運転者に対する交通指導取締りを強化するほか、販売店や学校、企業等と連携して、安全利用の周知・徹底に努めてまいります。

<要望>

警察が行っている自転車に関する交通ルール周知に向けた取組や、特定小型

原動機付自転車に関する悪質運転者への対応などは、よくわかりました。

自転車については、「歩道を通行する際は徐行」「歩行者の通行を妨げることになるときは一時停止」といった、歩道は歩行者が優先であることを自転車利用者に徹底していただきたいと思います。

また、歩行者が常態的に密集している歩道など、歩行者の通行を妨げるおそれがある場合には、私は自転車を押して歩くことなどを推奨していくことも有効ではないかと考えています。

今後も、警察には自転車等の交通ルール周知に加え、歩行者の安全確保に向けた啓発を進めていただくことをお願いして、自転車関連の質問を終わらせていただきます。

3.① 大阪・関西万博の機運醸成の取り組みについて

次に、大阪・関西万博の機運醸成の取り組みについてお伺いいたします。

さて、万博の開幕までいよいよ1年を切り、開幕準備の総仕上げのラストスパートの時期を迎えています。大阪府・市においても、開催の地元自治体として、万博機運の更なる盛り上げに向けて取り組んでいかなければなりません。そのためには工夫を凝らした情報発信により、多くの府民・国民の皆さんに、万博開催が近づいていることを実感してもらい、実際に万博を訪れてみたいと思っていただくことが重要だと考えていますが、今後、万博の機運醸成に向けて、どのように情報発信を進めていくのか。万博推進局長に伺います。

<万博推進局長 答弁>

- 万博の更なる機運醸成については、会場整備が進む状況のリアルタイムでの動画配信に加え、万博で実証・実装される最新技術等をウェブサイトで紹介するなど、万博への期待感を高めていただけるよう、適時適切に情報を更新しながら、PRを進めているところです。
- 今後、来場日時予約がスタートする本年10月頃に向け、各パビリオンの出展者によって更に具体的な展示内容が発信されることから、博覧会協会、経済界、行政で構成される機運醸成委員会において、9月から11月までをPR重点期と位置づけ、集中的に取り組みを展開していくこととしています。
- このPR重点期を見据え、取り組みの一例として、今月から10月にかけて大屋根リングの見学ツアーを開催するとともに、より多くの方々に最新の情報を届けるため、Youtuber等のインフルエンサーにも参画いただくなど、関係者と連携して、万博の

機運がさらに盛り上がるよう、しっかりと取り組んでまいります。

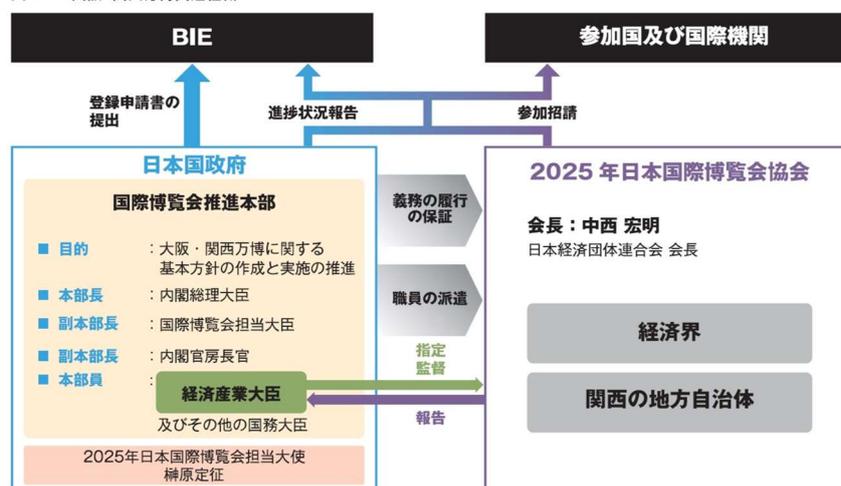
3.② 大阪・関西万博の機運醸成の取り組みについて

機運醸成については、しっかりと取り組んでいただきたいところです。

ところで、大阪・関西万博を実施する博覧会協会は、万博の特措法により設立され、経済産業大臣が大阪・関西万博の準備・運営を行う法人として指定し、監督権を有している関係です。また、政府では、同じく特措法に基づき、総理を本部長とする国際博覧会推進本部が設置されています。

2025年日本国際博覧会協会について（申請当時）

図 1-1：大阪・関西万博関連組織



出典：大阪・関西万博 登録申請書 ※申請当時
経済産業省ホームページ <https://www.meti.go.jp/policy/exhibition/osaka2025.html>

ここには副本部長として国際博覧会担当大臣のほか、各大臣が参画しており、まさに、万博に向けて政府をあげて取り組むこととされています。これまで以上に、国も責任をもって、情報発信や機運醸成などに取り組んで頂きたいと感じているところです。

2019年12月27日に博覧会国際事務局(BIE)へ登録申請書を提出して以来、様々な理由により、現在までに、経済産業大臣は5名、万博担当大臣は6名が歴任し、実に1年に1人交代しているペースで、阪神タイガースのかつての暗黒時代でもなかった監督権者の交代状況を踏まえると、これまでも懸念しており、今後交代されることがあれば、引き継ぎはしっかりとさせていただきたいと思っております。

そのような中で、この間、大阪府知事は吉村知事ただ一人です。これまでも日々、様々な情報発信等、非常に尽力されています。敬意を表したいと思っています。開催まで1年を切った今、今後どのように、開催地の知事として機運醸成に取り組もうとされているのか、知事のご所見をお伺いいたします。



<知事 答弁>

○ この万博については、開催地は大阪ですが、日本国主催の博覧会であります。正に、国家的なプロジェクトを国主催でやる。地元の責任者としてぜひ成功させたいと思えますし、この万博を契機に、日本の成長、大阪・関西の成長、そして世界で課題を共有する。正に日本のプレゼンスを高める絶好の機会と考えています。さらに言えば世界的なプロジェクトだとも認識しており、世界では、選挙で開催地を競い合っている。大阪でやることはもうそう簡単にはないと思います。先日の選挙におきましても、イタリアのローマと、韓国の釜山が敗れ、サウジアラビアのリヤドに決定しました。我々もこの選挙において、大阪、日本で開催ができるようにいうことで、選挙を勝ち取ってきました。世界においてもやりたい国々がたくさんある中で、この大阪において開催するわけですから、やはり日本を挙げて、このすばらしい万博を実現したいという思いで、日々過ごしております。

○ いよいよ10か月となりました。そういった意味からもやはり、大阪・関西に大きな効果があるのは当然ですが、日本の万博ですから、日本全体に効果を広げたいと私は思っています。そういった観点から、誰が何をしてほしいという愚痴を言っても仕方がないので、僕自身が何をできるのかということを考えながら行動していますが、例えば、全国の知事ブロック会等、大阪・関西以外のエリアで、どういった万博が行われるのか、その中身をできるだけ丁寧に伝えていくこと、そして各地の知事等にも、万博のPRをお願いします、加えて、現地のメディアに通じて、万博の意義や魅力をそのエリアで伝えていく、ということに取り組んでいます。

○ 今後も万博の機運醸成に向け、国と協会、そして地元我々が協力をして素晴らしい万博を作る。未来社会を実現して、未来の羅針盤を実現して、我々の次の世代も含めた、子ども・孫の世代も含めた、多くの皆さんが万博に来て、「次の未来社会はこっちの方向を向いて進んでいこう」と思ってもらえるような、社会課題解決型の万博を実現できればよいと思っています。そのために、批判されることは多いですが、機運醸成にむけてこれからも先頭に立って取り組んでいきます。

<要望>

知事、どうぞよろしくお願いいたします。万博がもたらす効果は大阪だけでなく我が国の成長には不可欠なもので、いわずもがな、国家プロジェクトでありますので、関係者がオールジャパン体制で一致団結して、成功に向け取り組んでいただきたいと思っておりますし、私自身も、昨年7月、全国議長会の場で、議長として岸田首相と面会し、機運醸成について直接要望し、総理からは「しっかりやっていく」と答弁をもらっています。

その言葉を信じて、開催地・大阪としてもできるかぎりの機運醸成を、大阪・関西万博の成功に向け取り組んでまいりたいと思っています。皆さん、頑張りましょう。

4.うめきた2期のまちづくりについて

次に、うめきた2期のまちづくりについて伺います。

大阪・関西の発展を牽引する重要なプロジェクトであるうめきた2期開発事業「グラングリーン大阪」が、本年9月6日にいよいよ先行まちびらきを迎えます。先月5月29日には、吉村知事、横山市長の出席のもと、「先行まちびらき100日前記念イベント」が開催されたところです。完成間近の自然豊かな公園や

イノベーション関連施設などが公開され、まちびらきへの機運が盛り上がって来たと感じています。

うめきたは、かつては地域を分断する梅田貨物駅でしたが、「都心に圧倒的なみどりを生み出す」との発想のもと、大阪府市が一体となって民間活力を活かしたまちづくりが進められてきました。

パネルをご覧ください。



9月の先行まちびらきでは、1万人規模の国際イベントも開催可能な「大屋根を備えた芝生広場」等を有する「うめきた公園」や、イノベーション創出の拠点となる「JAM BASE」等がオープンします。その後、万博開催までにホテルや商業施設、オフィスなど大部分の施設が開業予定であり、すでに本社機能の移転や、ソフトウェア開発拠点などの企業の入居も決定していると聞いています。

事業全体の完了は2027年度になるとのことですが、ターミナル駅に直結する世界最大級の都市公園を中心に、国内外から多くの人々が集い、活気と賑わいあふれる新しいまち「グラングリーン大阪」が完成することを心待ちにしています。

先日の「100日前記念イベント」において、知事は「駅前一等地の大規模なみどりが周辺地域を含めたまちの価値を高める。うめきたを中心に大阪・関西の拠点を形成していく。」と力強く発信されていました。

私も、うめきたエリアから新しい価値や賑わい、活力が生まれ、周辺に幅広く

波及することで、大阪・関西がさらなる成長を遂げることが重要と考えております。

そこで、先行まちびらきを契機とし、大阪・関西の成長をリードする一大拠点の形成に向け、そのポテンシャルを最大限に活用しながら「うめきた2期のまちづくり」を進めていくべきと考えますが、今後の取組みについて、大阪都市計画局長に伺います。

<大阪都市計画局長 答弁>

- うめきた2期「グラングリーン大阪」については、「みどりとイノベーションの融合拠点」の形成をめざし、官民一体となってまちづくりを推進してきたところです。
- また、「大阪のまちづくりグランドデザイン」において、「うめきた2期」を含む「大阪・新大阪エリア」を関西の中核として「世界で存在感を発揮する拠点エリア」に位置付け、各種の取組を進めることとしています。
- このうち、「うめきた2期」では、9月の先行まちびらき以降、多くの方々に都心のみどりを楽しんでいただくとともに、様々なイベントや実証実験プログラムの機会を提供するなど、みどり豊かな都市空間を活用したイノベーションの創出を図ることが重要であると認識しています。
- このため、大阪府市・経済団体・事業者で構成する「うめきた未来イノベーション機構」がコーディネート機能を担い、「JAM BASE」などのイノベーション施設を活用しながら、スタートアップや大学等の新たなアイデアや研究が社会実装につながるよう取り組んでまいります。
- あわせて、公園やみどり全体の運営・維持管理を担う「うめきたMMO」と連携し、大規模イベントの開催などを通じて、まちの賑わいづくりを促進してまいります。
- 引き続き、大阪・関西の成長をリードする拠点形成に向けて、関係機関との連携のもと、みどりとイノベーションの融合を図りつつ、うめきた2期のまちづくりの推進に積極的に取り組んでまいります。

<要望>

是非、よろしく願いいたします。

5. 御堂筋を活用した都市魅力の発信について

最後に、御堂筋を活用した都市魅力の発信についてお伺いします。昨年11月23日、阪神タイガースとオリックス・バファローズのリーグ制覇をお祝いする「優勝記念パレード」が、大阪府市や経済界で構成する実行委員会の主催のもと、大阪・御堂筋と兵庫・三宮の2会場において、盛大に開催されました。

当日は天候にも恵まれ、大阪会場の御堂筋には、両チームの監督、選手と喜びを分かち合おうと、延べ55万人もの方に足を運んでいただきました。また、多くのメディアに取り上げられたことで、大阪の賑わいや盛り上がりを大きく発信することができたと考えております。私の地元、北区の百貨店においても、チームのユニフォームを着て買い物をされている方がたくさんおられ、かなりの経済効果をもたらしたのではないかと考えております。

私はこのような大規模なイベントを、大阪のメインストリートである御堂筋で実施することは、賑わいの創出や都市魅力の発信に、大きな効果、インパクトがあると考えております。

特に、大阪・関西万博を控え、そのPRや機運醸成を、これまで以上に打ち出していく必要がある大阪にとっては、御堂筋の持つポテンシャルを最大限に活用したプロモーションの展開が非常に重要であると考えております。

そこで、今年度、万博の開催に向けて、この御堂筋でどのような取組みをされるのか、府民文化部長に伺います。

<府民文化部長 答弁>

- 御堂筋においては、非日常的なオンリーワンコンテンツを展開する11月の「御堂筋オータムパーティー」や大阪の冬を鮮やかに彩る「御堂筋イルミネーション」、3万人を超えるランナーが風を切り疾走する2月の「大阪マラソン」など、大阪を代表する大規模イベントに多くの方々にお越しいただくとともに、大阪の魅力を国内外に発信しております。
- 今年度、大阪府市、関係団体で開催する「御堂筋オータムパーティー」では、実施区間を大幅に延長し、内容も更に拡充したパフォーマンスで観客を魅了するほか、「御堂筋イルミネーション」では、これまででない圧倒的な光の演出で来場者をおもてなしいたします。
- また、「大阪マラソン」では、マラソンコースに御堂筋が設定されていることも魅

力の一つとなっています。大阪・関西万博開幕50日前となる次回の大会では、機運醸成につながるよう、御堂筋を含めたコース全体を魅力発信の場として活用するとともに、シカゴマラソンなど提携している国際大会でもPRを行います。

- こうした取り組みを通じて、万博のPRや機運醸成を加速させるとともに、開催地大阪の都市魅力をより強力に発信してまいります。

<要望>

大阪の顔ともいえる御堂筋から、大阪の都市魅力や賑わいを国内外にどんどん発信していただき、2025年大阪・関西万博を大いに盛り上げていただくことを切にお願いします。

また、大阪マラソンも、地元の理解と協力により成り立っているものです。地元としては人流が増える効果など歓迎されているところもありますが、交通規制に伴う課題などもお聞きしているところがあり、そういった地域の声を丁寧に聴いて今後の大会運営にも活かしていただき、さらに発信力の高いよりよいものにしていただきたいと思います。

さて、阪神タイガースとオリックスバファローズの優勝記念パレードですが、言うまでもなく、両チームの選手・球団は、パレードをするために優勝をめざしているわけではありません。プロ野球とは、観客の存在があってこそ成り立つ職業で、なかでも野球選手を目指す子どもの存在が今後の野球の下支えとなっていきます。その子どもたちが野球で使用するグラウンドが、都心では、どんどんなくなり、あったとしても整備等には多額の費用を要します。優勝パレードの実施記念として少年野球のグラウンド等を整備すれば、球児の練習環境が少しでも改善されることに加え、球団への感謝、あこがれも一層抱くでしょうし、また、パレードの実施に対する球団・選手の意識も、その日だけ盛り上がる一過性のものではなく、今後の球団・球界の盛り上げにつながるものとして受け止められ、選手お一人お一人の手の振り方も熱が入ったものになると考えます。

今回のパレードで出た黒字は、関西・大阪21世紀協会に寄附されたと聞きますが、大阪の賑わいや盛り上がり発信させてもらえた球団への感謝という点でも、両チームのファンが納得できる使い方となるようぜひともお願いを申し上げます。私の質問を終わります。ありがとうございました。